

公益財団法人日本バレーボール協会

第2期事業報告書

(2011年4月1日～2012年3月31日)

1. 事業の概況

本会は、2011年2月1日に公益財団法人日本バレーボール協会に移行した。事業年度途中の移行であったため、第1期は2カ月間というみなし事業年度であり、当期が公益認定法人として1年間を通した最初の事業年度であった。

当期は東日本大震災の対応に全力を傾けることから始まった。4月2日には立木代表理事会長を先頭に、各理事、植田全日本男子監督ほかが東京・新宿駅前で街頭募金活動を行った。これを皮切りとして全日本女子紅白試合の収益を贈るなど、被災された地域の方々にバレーボールを通した数々の支援を行い、1日も早い復旧復興を祈念した。

本会事業では、ワールドカップ開催を被災した仙台に代わり広島に引き受けていただくなど、全国大会の開催も含め東日本大震災の影響を最小限に食い止めるための諸施策を実行した。

国際大会日本開催を断念する競技団体もあったが、8月のワールドグランプリ小牧大会及び東京大会を滞りなく開催、諸外国の福島原発事故による放射線被害の懸念を払拭する一助となった。

開催が危ぶまれたワールドカップも国際バレーボール連盟（以下「FIVB」といいます。）の協力を得て成功裏のうちに終了したが、女子がロンドンオリンピックの出場権を逃し、男子も10位という結果に終わるなど、来期へ大きな課題を持ち越すことになった。

この結果、当期の経常収益は3,013,052千円、経常費用3,081,845千円、税引前正味財産減少額（赤字額）は68,793千円となり、法人税、住民税及び事業税2,948千円計上後の正味財産減少額は71,741千円という厳しい決算となった。

2. 事業内容

(1) 競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

①日本代表チーム及び選手の育成・強化事業

全国の社会人、大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため以下の諸事業を行った。

1) シニア男子・女子日本代表チーム強化合宿

本年度の最大目標であるFIVBワールドカップ2011（4年に1回開催）でのメダル獲得及びアジア選手権（2年に1回開催）での優勝を目標として選手強化

合宿を行った。

*男子 国内合宿・ナショナルトレーニングセンター(以下「NTC」という。)を主会場として71日間実施。

海外合宿・メキシコ、アルゼンチン、ブラジルで22日間実施。

*女子 国内合宿・NTCを中心に77日間実施。

海外合宿・イタリア、ドイツ、イギリスで31日間実施。

(注1・シニアチームとはトップレベル選手から構成された日本代表チームである。)

2) ユニバーシアード男子・女子日本代表チーム強化合宿

ユニバーシアード大会(8月・中国)でのメダル獲得を目標として選手強化合宿を行った。

*男子 国内合宿・NTCほかで34日間実施。

*女子 国内合宿・NTCほかで22日間実施。

(注2・ユニバーシアードチームとは主に大学生を中心に構成された日本代表チームである。)

3) ジュニア男子・女子日本代表チーム強化合宿

本年度の最大目標である世界選手権(男子/8月・ブラジル、女子/7月・ペルー)でのメダル獲得を目標に強化合宿を行った。

*男子 国内合宿・NTCほかで17日間実施。

海外合宿・世界選手権直前強化合宿としてブラジルで7日間実施。

*女子 国内合宿・NTCを中心に19日間実施。

海外合宿・世界選手権直前調整合宿としてブラジルで7日間実施。

(注3・ジュニアチームとは主に20歳以下の選手を中心に構成された日本代表チームである。)

4) ユース男子・女子日本代表チーム強化合宿

*男子 国内合宿・20日間実施

*女子 国内合宿・21日間実施。

海外合宿・世界選手権直前にイタリアで7日間実施。

(注4・ユースチームとは主に高校生を中心に構成された日本代表チームである。)

5) ビーチバレー日本代表選手強化合宿

ロンドンオリンピックの予選であるコンチネンタルカップでの出場権獲得を目標に国際バレーボール連盟ワールドツアー出場と各種国際大会の日程調整を行い、効率的な強化合宿を実施した。

②将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

1) バレーボールアカデミー事業

全国からオーディション等で選抜された中学生をトレーニングセンターに集め、アカデミープログラムに基づき、トップレベルの指導体制による強化

合宿を、年間を通して実施した。

2) 全国小学生長身選手発掘、全国選抜中学生強化合宿事業

将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施した。

③競技力向上にかかるバレーボール技術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

- 1) 日本代表選手の体力測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方の方案と提言を行った。
- 2) 日本チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握を行った。
- 3) トレーナーの育成、教育を行い、日本代表チームに派遣した。
- 4) 日本代表チームにドクターを派遣するとともに薬剤の手配を行った。
- 5) アンチ・ドーピングの啓発と普及及び研修を行った。
- 6) 日本開催の国際大会及びビーチバレーを含む主要国内大会で日本代表選手を中心にドーピング検査を実施した。

④日本代表選手団の国際大会派遣事業

選手強化合宿の効果を検証するとともに、実戦（試合）を経て得られる技術、戦術ほか総合的な競技力向上を目的として以下の各大会に日本代表選手団を派遣した。

1) シニア日本代表チーム

- *男子 ワールドリーグ（開催国・ロシア、ブルガリア、ドイツ、開催期間・5/27～7/1）（以下同様に表記） 15位
- 第16回アジア選手権（イラン、9/21～9/29） 5位
- FIVB ワールドカップ 2011（日本、11/20～12/4） 10位

- *女子 モントルーバレーマスターズ（スイス、6/7～6/12） 優勝
- ワールドグランプリ（韓国、日本、マカオ、8/5～8/28） 5位
- 第16回アジア選手権（チャイニーズタイペイ、9/15～9/23） 2位
- FIVB ワールドカップ 2011（日本、11/4～11/18） 4位

2) ユニバーシアード日本代表チーム

- *男子 第26回ユニバーシアード競技大会（中国、8/12～8/23） 9位
- *女子 VTV カップ（ベトナム、7/8～7/16） 優勝
- 第26回ユニバーシアード競技大会（中国、8/12～8/23） 4位

3) ジュニア日本代表チーム

- *男子 ジュニア世界選手権大会（ブラジル、8/1～8/10） 12位
- *女子 ジュニア世界選手権大会（ペルー、7/22～7/31） 11位

4) ユース日本代表チーム

*女子 ユース世界選手権大会 (トルコ、8/12~8/21) 7位

5) ビーチバレー男女日本代表チーム

- ・AVCコンチネンタルカップ 男女第3フェーズ (2012.6月/中国) 進出
- ・ワールドツアー (世界各地で4月~10月まで開催、7、8月はほぼ毎週末開催) 男子7、女子10大会に出場

(終了時ワールドランキング最上位 男子73位、女子40位)

- ・第26回ユニバーシアード競技大会 (中国、8/12~8/23)

男子：村上・佐藤17位、 女子：石田・永田25位

- ・ジュニア男女世界選手権大会 (カナダ、8/29~9/7)

男子：高橋・渡辺19位、 女子：石田・鈴木9位

⑤東日本大震災復旧・復興支援活動

1) チャリティーマッチ開催

岐阜県中津川市で全日本シニア女子チームが紅白戦を行い、その入場料の全額を被災地に贈った。

開催日：2011年5月22日 入場料収入：3,070千円

2) バレーボール教室開催時における募金活動

全日本シニアチーム強化合宿の際に行うバレーボール教室にて、来場者に募金を募るなど、支援活動を行った。

3) 復旧・復興支援アピール活動

世界大会に参加する日本選手団のユニホームに本会支援活動のスローガンである“こころはひとつ”のワッペンを縫い付け、国内外の観客やテレビ視聴者に復旧・復興支援をアピールする活動を行った。

(2) 国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

①国際大会開催事業

1) FIVB ワールドカップバレーボール 2011 男女大会

国際バレーボール連盟が4年に1回開催する FIVB ワールドカップバレーボール 2011 男女大会 (以下「ワールドカップ」という。) を FIVB と協力して日本で開催。

ワールドカップは、バレーボール界3大大会の一つで、その翌年開催となるオリンピックの出場権が付与される最初の大会である。

開催期間：11月4日~12月4日の22日間

試合数 : 女子大会 全 66 試合 / 男子大会 全 66 試合

参加国 : 各大陸予選 (FIVB 加盟 220 カ国) を勝ち抜いた男女各 12 カ国
(選手団 480 人、競技役員 40 人、計 520 人が来日)

開催都市 : 東京、長野、富山、札幌、岡山、名古屋、鹿児島、大阪、広島
熊本、福岡、浜松の計 12 都市。

A. 大会結果(最終順位) : 男女とも上位 3 チームはロンドンオリンピック出場
権を獲得

○女子大会 (2011 年 11 月 4 日～18 日 15 日間 全 66 試合)

1 位・イタリア 2 位・アメリカ 3 位・中国 4 位・日本

5 位・ブラジル 6 位・ドイツ 7 位・セルビア

8 位・ドミニカ共和国 9 位・韓国 10 位・アルゼンチン

11 位・アルジェリア 12 位・ケニア

○男子大会 (2011 年 11 月 20 日～12 月 4 日 15 日間 全 66 試合)

1 位・ロシア 2 位・ポーランド 3 位・ブラジル 4 位・イタリア

5 位・キューバ 6 位・アメリカ 7 位・アルゼンチン 8 位・セルビア

9 位・イラン 10 位・日本 11 位・中国 12 位・エジプト

B. 観客数及び視聴率

○女子大会

<1st ラウンド : 会場・広島サンプラザ>

・ 11 月 4 日(金) 日本 対 イタリア

観客数 : 4,000 名 視聴率 : 19 時 04 分～21 時 24 分 11.8%

・ 11 月 5 日(土) 日本 対 アルゼンチン

観客数 : 4,000 名 視聴率 : 19 時 04 分～21 時 04 分 11.5%

・ 11 月 6 日(月) 日本 対 中国

観客数 : 4,000 名 視聴率 : 19 時 04 分～21 時 44 分 15.0%

<2nd ラウンド : 会場・広島サンプラザ>

・ 11 月 8 日(火) 日本 対 アルジェリア

観客数 : 4,000 名 視聴率 : 19 時 04 分～20 時 54 分 13.2%

・ 11 月 9 日(水) 日本 対 ドミニカ共和国

観客数 : 4,000 名 視聴率 : 19 時 04 分～21 時 04 分 15.9%

<3rd ラウンド : 会場・きたえーる (北海道立総合体育センター) >

・ 11 月 11 日(金) 日本 対 セルビア

観客数 : 7,500 名 視聴率 : 20 時 14 分～22 時 19 分 14.8%

・ 11 月 12 日(土) 日本 対 韓国

- 観客数：8,000名 視聴率：19時04分～21時09分 15.4%
- ・11月13日(日) 日本 対 ブラジル
観客数：8,000名 視聴率：19時04分～21時19分 16.3%
- <4th ラウンド：会場・国立代々木競技場第一体育館>
- ・11月16日(水) 日本 対 ケニア
観客数：8,000名 視聴率：19時04分～20時54分 15.5%
 - ・11月17日(木) 日本 対 ドイツ
観客数：10,000名 視聴率：19時04分～21時49分 17.4%
 - ・11月18日(金) 日本 対 アメリカ
観客数：12,000名 視聴率：19時04分～21時19分 24.1%

○男子大会

<1st ラウンド：日本ガイシホール（名古屋市）>

- ・11月20日(月) 日本 対 イラン
観客数：6,190名 視聴率：19時04分～21時34分 11.1%
- ・11月21日(火) 日本 対 アルゼンチン
観客数：3,730名 視聴率：19時04分～21時39分 13.6%
- ・11月22日(火) 日本 対 キューバ
観客数：4,380名 視聴率：19時04分～21時04分 10.9%

<2nd ラウンド：大阪市中央体育館>

- ・11月24日(木) 日本 対 セルビア
観客数：5,010名 視聴率：19時04分～21時49分 12.3%
- ・11月25日(金) 日本 対 ポーランド
観客数：8,000名 視聴率：19時04分～21時29分 10.5%

<3rd ラウンド：マリンメッセ福岡>

- ・11月27日(日) 日本 対 エジプト
観客数：6,800名 視聴率：19時04分～21時34分 9.4%
- ・11月28日(月) 日本 対 中国
観客数：4,340名 視聴率：19時04分～21時04分 14.2%
- ・11月29日(火) 日本 対 アメリカ
観客数：5,200名 視聴率：19時04分～21時09分 13.1%

<4th ラウンド：国立代々木競技場第一体育館>

- ・12月2日(金) 日本 対 ロシア
観客数：7,700名 視聴率：19時04分～20時54分 10.3%
- ・12月3日(土) 日本 対 イタリア
観客数：11,000名 視聴率：19時04分～20時59分 10.0%

- ・12月4日(日) 日本 対 ブラジル
観客数：12,000名 視聴率：19時04分～21時04分 10.8%

2) FIVB ワールドグランプリ 2011

FIVB はアジアでの女子バレーボールの発展を目的としてアジア地区で本大会を毎年、開催しているが、本年は予選ラウンドを FIVB と協力して開催した。

開催期間：8月12日～14日、8月19日～21日、計6日間

試合数：全12試合

参加国：アジア、ヨーロッパ、北中米、南米の代表16チーム

(選手団120人、競技役員12人、計132人が来日)

<予選ラウンド第2週 グループH：会場・パークアリーナ小牧(愛知)>

- ・8月12日(金) 日本 対 セルビア
観客数：5,100名 視聴率：24時55分～26時55分 2.3%
- ・8月13日(土) 日本 対 アメリカ
観客数：5,160名 視聴率：19時04分～20時59分 8.3%
- ・8月14日(日) 日本 対 ドミニカ共和国
観客数：5,170名 視聴率：15時00分～16時54分 4.6%

<予選ラウンド第3週 グループH：会場・有明コロシアム(東京)>

- ・8月19日(金) 日本 対 セルビア
観客数：4,500名 視聴率：24時55分～26時55分 2.2%
- ・8月20日(土) 日本 対 韓国
観客数：10,000名 視聴率：19時00分～20時54分 9.4%
- ・8月21日(日) 日本 対 ロシア
観客数：7,850名 視聴率：19時00分～20時54分 8.4%

*この結果、日本は決勝ラウンド進出。

3) FIVB ワールドリーグ 2011

FIVB は毎年、その年の男子バレーボールの世界一を決める本大会を開催している。本年はインターコンチネンタル・ラウンドを FIVB と協力して開催する予定であったが、2011年3月11日発生の東日本大震災による福島第一原子力発電所事故による放射線被害の懸念から、FIVB より開催計画の見直しを迫られ、2011年度の FIVB 主催国際大会として一番早いタイミングで開催予定であった以下の試合がすべて中止となり、それぞれ対戦国のドイツ、ロシア、ブルガリアでの代替開催となった。

<予選ラウンド・グループB>

開催期間：6月11日～12日、6月18日～19日、6月25日～26日の計6日間

試合数：全6試合

参加国：日本、ドイツ、ロシア、ブルガリア

開催都市：越谷市→ドイツ、長崎市→ロシア、和歌山市→ブルガリア

②国際貢献・交流事業

1) FIVB 及びアジアバレーボール連盟(AVC)役員等派遣事業

世界のバレーボール界の統轄組織である FIVB 及びアジアの統轄組織である AVC の理事職及び競技運営、審判規則、指導普及、医事ほか各種委員会の委員として本会の代表を派遣、世界のバレーボール界の発展に尽力し国際的な貢献を行った。

本年は、FIVB 及び AVC 理事会ほか各種会議に当該メンバーを派遣するとともに、国際レベルの指導者講習会への講師派遣、各国で開催される世界大会、アジア大会ほかに競技役員、審判員ほかを派遣した。

○役員等派遣

派遣月日	派遣先	行事
4月8日	スイス/ローザンヌ	FIVB 理事会 参加者：立木正夫 FIVB 理事 同行・事務局員 2名 (以下同様式にて記載。)
4月8日	スイス/ローザンヌ	FIVB ビーチバレー会議 参加者：小島和行理事 同行・事務局員 1名
4月9日	スイス/ローザンヌ	ワールドカップ会議 参加者：立木 FIVB 理事、小島理事 同行・事務局員 1名
5月12日	中国/北京	ワールドカップ特別会議 参加者：立木 FIVB 理事、小島理事 同行・事務局員 1名
5月13日	中国/北京	AVC 理事会 参加者：立木 AVC 理事、羽牟裕一郎医事委員長、同行・事務局員 2名
9月21日	台湾	AVC 総会 参加者：立木 AVC 理事、中野泰三郎代表理事、岩満一臣事務局長、 羽牟医事委員長、
12月6日	スイス/ローザンヌ	FIVB ワールドグランプリ会議 参加者：羽牟理事、小島理事
12月7日	スイス/ローザンヌ	FIVB ワールドリーグ会議 参加者：羽牟理事、小島理事
12月16～17日	スイス/ローザンヌ	FIVB スポーツ競技委員会会議

参加者：若尾勝美 FIVB 委員

2012年1月8～9日 スイス/ローザンヌ FIVB 医事委員会会議

参加者：羽牟 FIVB 医事委員会委員

1月10～12日 スイス/ローザンヌ FIVB 審判委員会会議

参加者：下山隆志 FIVB 審判委員会委員

1月10～12日 スイス/ローザンヌ FIVB ルール委員会会議

参加者：西川友之 FIVB ルール委員会委員

1月12～14日 スイス/ローザンヌ FIVB 技術委員会会議

参加者：豊田博 FIVB 技術委員会委員長

2月7日 中国/北京 AVC コーチ委員会会議

参加者：森田淳悟 AVC コーチ委員会委員

2月15日 中国/北京 AVC マーケティング委員会会議

参加者：豊原祥徳 AVC マーケティング委員会委員

2月16～17日 中国/北京 AVC スポーツ競技委員会会議

参加者：西脇克治 AVC スポーツ競技委員会委員

2月29日 スイス/ローザンヌ FIVB 広報委員会会議

参加者：事務局員広報担当

3月19日 スイス/ローザンヌ FIVB 理事会

参加者：立木 FIVB 理事、中野代表理事、豊田 FIVB 技術委員長
竹内浩 FIVB プレス委員長

○レフェリー派遣

FIVB の派遣要請を受け、4月2日の FIVB ビーチバレーワールドツアーを皮切りに、12カ国、12大会に延べ23名のレフェリーを派遣した。

2) バレーボールバンク事業

発展途上国へボールほかバレーボール用器具を寄贈して競技の普及を図り、同時に様々なバレーボール情報を提供し、発展途上国のスポーツ振興に寄与した。

寄贈先 台湾：5号球 100球

JICA 経由ニカラグア：5号球 68球、4号球 15球、ネット1セット

(3) 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

①講習会（バレーボール教室）開催事業

1) バレーボールをやってみよう～Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室

(参加者総数 2,038名：男子児童 407名、女子児童 895名、保護者 736名)

本会では、小学生のバレーボール未経験者及び初心者を対象に、Vリーグ選

手が参加してバレーボール教室を毎年各地で開催しているが、本年度は以下の8道県で実施した。

北海道、和歌山県、佐賀県、岐阜県、鳥取県、沖縄県、福井県、愛媛県

- 2) バレーボールを上手になろう～全国小学生バレーボール教室・指導者研修会
(参加者総数 2,069 名：選手 1,689 名、指導者 380 名)

本会では、小学生のバレーボール経験者を対象としてバレーボール教室を開催、併せて小学生指導者を対象に指導実技研修会を毎年各地で開催しているが、本年度は以下の8府県で実施した。

秋田県、岡山県、長野県、高知県、山梨県、大阪府、静岡県、宮崎県

②指導者養成事業

小学生指導者ほか各種別の指導者を対象に以下の養成講習会等を開催した。

- 1) 全国小学生バレーボール指導者講習会

(受講者総数 2,087 名：一次講習会 1,198 名、二次講習会 889 名)

本会では、小学生の指導者を対象として第一次及び第二次講習会を毎年各地で開催しているが、本年度は以下の9県で実施した。

埼玉県、宮崎県、奈良県、香川県、山形県、千葉県、滋賀県、山口県、大分県

- 2) 全国中学生バレーボール指導者講習会 (参加者数 55 名)

本会では、中学生の指導者を対象として全国中学生指導者講習会を毎年各地で開催しているが、本年度は以下の2都県で実施した。

愛知県、東京都

- 3) 都道府県別バレーボール指導者研修会 (参加者数 532 名)

各都道府県の指導者の資質向上を目的に、全国10都道府県で開催した。

三重県、佐賀県、富山県、島根県、静岡県、奈良県、滋賀県、山形県、広島県、茨城県

- 4) ソフトバレーボールリーダー・マスターリーダー養成講習会 (参加者数：リーダー講習会 752 名、マスターリーダー講習会 94 名)

ソフトバレーボールの指導、審判、競技運営ができる指導者の養成を目的に大阪府ほか20都府県で開催した。

- 5) ビーチバレー指導者講習会 (参加者数 38 名)

ビーチバレー指導者を対象に、大阪府で開催した。

- 6) 日本体育協会公認上級コーチ、コーチ、指導員・バレーボール専門教科認定講習会 (参加者総数 268 名：上級コーチ 25 名、コーチ 29 名、指導員 214 名)

日本体育協会からの受託事業として、上級コーチ、コーチ、指導員の資格取得に向けたバレーボール専門科目の講習会を東京と大阪で開催した。

7) 本会公認講師認定講習会・公認講師研修会

本会が開催する講習会の講師を務める指導者を対象とする認定講習会及びスキル向上のための研修会開催を本年は見合わせ、公認スポーツ指導者（コーチ・上級コーチ）研修会を開催した（参加者数 80 名）

③審判員等養成事業

競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員及び技術統計判定員を養成するため、以下の講習会等を開催した。

講習会名等	実施期間	会場	参加者数
A級審判員資格取得講習会	23.08.08～12	東大阪市・近畿大学	72名
全国ビーチバレー審判講習会	23.05.28～29	福岡・福岡工業大学附属城東高等学校ビーチバレーコート	30名
全国ラインジャッジ・クリニック	23.04.29～05.01	大阪市・大阪府立体育館	60名
全国6人制審判講習会	24.03.25	東京都・慶應義塾中等部	276名
全国9人制審判講習会	23.04.02～03	(東日本大震災のため中止)	
ブロックA級審判員講習会	23.04.01～06.30	全国各ブロック	740名
Iスクール	23.08.11～08.26	近畿大学他	51名
ビーチIスクール	23.07.27～31	大阪・潮騒ビバレー	2名
Vスクール	23.04～12	全国各ブロック	93名
技術統計上級判定員認定講習会	23.04.29	東京都・国立オリンピック記念青少年総合センター	30名
競技会事前講習会	23.07～24.01	国内競技会開催地	429名
A級審判員研修会（6人制）	23.12.06～08	とどろきアリーナ他	100名
A級審判員研修会（9人制）	24.01.19～21 24.01.27～29	京都府 大阪府	8名 11名

④指導者等資格認定事業

1) 指導者資格認定事業

本会では、バレーボールを正しく、安全に、楽しく指導することで、バレーボールの本質的な素晴らしさを伝えることができる指導者資格として以下の資格の認定登録を行った。

小学生バレーボール指導者資格 ソフトバレーボールリーダー

ソフトバレーボール・マスターリーダー 公認講師

2) 審判員資格認定事業

本会では、競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員資格として以下の資格の認定登録を行った。

A級審判員 A級候補審判員 B級審判員 C級審判員

レフェリーインストラクター

3) 技術統計判定員資格認定

本会では、競技における技術統計記録法の適正な運用と、各種プレーの評価と

判定の統一を行う技術統計判定員資格として以下の資格の認定登録を行った。

技術統計判定指導員 技術統計上級判定員 技術統計判定員

(4) 全国大会等国内競技会開催事業

①天皇杯皇后杯全日本選手権大会開催事業（男女大会）

天皇杯・皇后杯は昭和 25 年(1950 年)に全日本 9 人制選手権大会に下賜されて以来、平成 23 年までの 62 年間、日本国内最強のチームに授与されてきた。平成 19 年度からは中学生以上のチームならどのチームでも参加できる壮大な全日本選手権大会に生まれ変わったが、本年はその 5 回目として以下の日程で実施した。

都道府県ラウンド：平成 23 年 4 月～7 月 各都道府県内体育館
(901 チーム・16,218 名参加)

ブロックラウンド：平成 23 年 9 月～10 月 各地域ブロック内体育館
(204 チーム・3,672 名参加)

ファイナルラウンド：平成 23 年 12 月 14 日～18 日 東京体育館
(48 チーム・864 名参加)

優勝チーム 男子：パナソニック・パンサーズ（大阪）

女子：東レアローズ（滋賀）

②全日本小学生大会（男女大会）

教育的配慮のもとにバレーボールを通じて全国児童の親睦と交流を図ること、バレーボールによる小学生の体力向上とたくましい意欲の養成に努めること、低学年層から正しいバレーボールの基本技術とチームプレーを体得し、楽しいゲームが出来るように指導することを目的に、以下の日程で実施した。

都道府県大会 ：平成 23 年 4 月～9 月 各都道府県内体育館
(5,987 チーム・77,754 名参加)

全国大会 ：平成 23 年 8 月 10 日～13 日 東京体育館ほか 4 会場
(都道府県代表 98 チーム・1,339 名参加)

なお、例年同様、大会と並行して各選手村（宿泊施設）
で教育活動を行った。

優勝チーム 男子：上野（東京）、女子：室町（京都）

③全国都道府県対抗中学大会（男女大会）

将来のオリンピック選手発掘と中学生バレーボールのレベルアップを図り、各チームとの交流を通して友情を深めスポーツマンシップの高揚に努めると共に、中学生指導者の研修の場とすることを目的に、本年は以下の日程で実施した。

開催期間：平成 23 年 12 月 25 日～28 日

会 場：大阪府中央体育館ほか 3 会場（97 チーム・1,164 名参加）

優勝チーム 男子：東京都、女子：長野県

④全日本高等学校選手権大会（男女大会）

都道府県予選を勝ち抜いた高校日本一を決める大会として本年は以下の日程で実施した。

開催期間：平成 24 年 1 月 5 日～9 日

会 場：東京体育館（104 チーム・1,872 名参加）

優勝チーム 男子：大村工業高等学校（長崎）

女子：東九州龍谷高等学校（大分）

⑤秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（男女大会）

大学在校生で構成されたチームなら全ての大学が参加できる大会として、本年も以下の日程で大学日本一を決める本大会を実施した。

開催期間：平成 23 年 12 月 6 日～11 日

会 場：川崎市とどろきアリーナほか（215 チーム・3,870 名参加）

優勝チーム 男子：東海大学（神奈川）、女子：東海大学（神奈川）

⑥ビーチバレージャパン

ビーチバレー日本一を決める全日本選手権大会として、本年は以下の日程で実施した。

男子大会：平成 23 年 8 月 10 日～13 日 神奈川県藤沢市鵠沼海岸

（59 チーム・118 名参加）優勝チーム：青木・白鳥（推薦）

女子大会：平成 23 年 7 月 28 日～31 日 大阪府泉南郡岬町淡輪

（40 チーム・80 名参加）優勝チーム：田中・溝江（推薦）

⑦前記各競技大会に加え本会主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種別全国大会を実施した。

大会名等	実施期間	会場	チーム数	選手数	優勝チーム
全日本⑨実業団女子選手権大会	23.07.15 ～18	東京都小平市・ 羽村市	30	450	パナソニックエナジー（大阪）
全国ママさん大会（⑨）	東日本大震災のため中止				
全日本⑨実業団男子選手権大会	23.07.21 ～24	山形県鶴岡市	65	975	中部徳洲会病院（沖縄）
全日本⑨クラブカップ女子選手権大会	23.08.05 ～08	岡山県岡山市	62	930	所沢若松倶楽部（埼玉）
全日本⑨クラブカップ男子選手権大会	23.08.11 ～14	静岡県袋井市・ 浜松市	64	960	西京倶楽部（山口）
全国⑨社会人東ブロック男女優勝大会	23.10.07 ～10	北海道旭川市	58	870	男子：IHI 横浜（神奈川） 女子：新宿闘心会（東京）
全国⑨社会人西ブロック男女優勝大会	23.11.04 ～07	和歌山県和歌山 市	60	900	男子：沖縄銀行（沖縄） 女子：はまあ～ず（大阪）
全日本⑨総合女子選手権大会	24.01.19 ～22	京都市	52	780	パイオニア（埼玉）
全日本⑨総合男子選手権大会	24.01.27 ～30	大阪市	60	900	住友電工（大阪）

黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	23.04.30 ～05	大阪市	32	576	男子：東レアローズ（静岡） 女子：JTマーヴェラス（大阪）
全日本クラブカップ男子選手権大会	23.08.03 ～06	大阪市	64	1,152	いわさき Blue Wave（鹿児島）
全日本クラブカップ女子選手権大会	23.08.04 ～07	徳島県徳島市・ 北島町	56	1,008	JAぎふ倶楽部（岐阜）
全国ヤングクラブ優勝大会	23.09.23 ～24	大阪府門真市・大 阪市	108	1,944	Winds（京都） JVA貝塚ドリームス（JV A）徳島ヤングクラブ（徳島） 安芸のうみ（広島）
以上⑨は9人制大会、その他は6人制大会					
全日本ビーチバレー大学男女選手権大会	23.08.05 ～07	神奈川県川崎市	64	128	男子：神戸学院大学A 女子：了徳寺大学B
全日本ビーチバレーJユニア男子選手権大会	23.08.04 ～07	大阪府阪南市	52	156	藤田・木村（大阪）
全日本ビーチバレーJユニア女子選手権大会	23.08.11 ～14	愛媛県伊予市	48	144	伊藤・大橋（兵庫）
第2回全国中学生ビーチバレー大会	23.08.20 ～21	神奈川県藤沢市	45	135	男子：藤沢クラブ（神奈川） 女子：魚住（兵庫）
全国ソフトバレー・ファミリーフェスティバル	23.08.05 ～07	東京都墨田区	48	432	
全国ソフトバレー・シルバーフェスティバル	23.10.21 ～23	福島県福島市	54	486	
全国ヴィンテージ8' S 交流大会	23.11.11 ～13	沖縄県浦添市	32	480	50歳以上：See You Again（福岡） 60歳以上：富士山倶楽部（静岡）

⑧本会、公益財団法人日本体育協会等との共催により、以下の大会を実施した。

1) 国民体育大会バレーボール競技

日程・平成23年10月7日～10日 開催地・山口県防府市ほか
優勝チーム 成年男子：東京都、成年女子：滋賀県
少年男子：山口県、少年女子：山口県

2) 日本スポーツマスターズ2011

日程・平成23年9月17日～20日 開催地・石川県金沢市ほか
優勝チーム 男子：PARADISE（大阪）、女子：栄クラブ（静岡）

⑨本会、公益財団法人全国高等学校体育連盟等との共催により、以下の大会を実施した。

1) 全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技

日程・平成23年7月28日～8月1日 開催地・秋田県横手市
優勝チーム 男子：創造学園高等学校（長野）

2) 全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技

日程・平成23年7月28日～8月1日 開催地・青森県八戸市
優勝チーム 女子：東九州龍谷高等学校（大分）

3) 全国高等学校定時制・通信制大会

日程・平成23年8月4日～7日 開催地・神奈川県平塚市
優勝チーム 男子：科学技術高校刈谷（愛知）、女子：岡山後楽園（岡山）

⑩本会、公益財団法人日本中学校体育連盟等との共催により、以下の大会を実施した。

全日本中学校バレーボール選手権大会（男女大会）

日程・平成23年8月17日～20日 開催地・大阪府大阪市

優勝チーム 男子：駿台学園（東京）、女子：大阪国際大和田（大阪）

（5）マーケティング事業

バレーボールの社会的な価値や本会事業の推進に賛同いただいている協賛社とのパートナーシップの強化及び新規協賛社の獲得に向け積極的に活動した。

新法人に移行した2月1日からの法人名変更及び商標の変更に伴う諸作業を実施した。

（6）バレーボール用品・用具の公認及び公認物品販売事業

競技の公正、安全ほか競技者が安心して楽しくプレーできるように、ボール、ネットほか用品・用具の検定及び認定を行うとともに、バレーボール観戦を通して個人としてのマナー、エチケットなど、豊かな人間性を育むことを目的に、本会公認物品の販売を行った。

（7）出版物等販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの国民に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール6人制競技規則、同9人制規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則の2012年度版を3月に出版販売した。

（8）Vリーグ開催及び開催支援事業

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構が主催するVリーグについて、東京における開催権を取得し、バレーボールの普及、振興に合わせ、本会が行う公益目的事業の遂行に必要な財源調達を図ることを目的として決勝ラウンドの開催を予定していた。しかし同リーグは2011年3月14日をもって以後の試合の打ち切りが決まり、4月第1週の本会が開催を予定していた決勝ラウンドも中止となった。このことにより初期の目的を果たすことができなかった。

（9）その他・地域グループ育成事業

①本会加盟団体育成・強化事業

本会の加盟団体である都道府県バレーボール協会等に交付金を交付することで、

加盟団体が行う公益目的事業の遂行や団体管理運営に必要な経済的支援を行った。

②東日本大震災復旧・復興支援事業

宮城、岩手、福島の被災3県のバレーボール協会を支援するため、宮城県バレーボール協会経由で被災地各地に5号球 500球、4号球 54球を寄贈した。

以上